

たわわ

SPRING
No.86

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

海の風にのって ハーモニーが聞こえる



TAKASHI KANO
CIRCUS

ハーモニーでぬくもりを伝えたい

ヴォーカルグループ "サーカス" リーダー

叶高(かのうたかし)さん



叶高さん カナフにて

ある。これはとても残念な結果だ。いい生演奏は、二度とない一瞬をその場で共有し、平凡な日常に彩りを加え、心を豊かにしてくれるものだから…。

平塚市内には幾つかのライブハウスやコンサートホールがある。その中のひとつが、『Mr. サマータイム』『アメリカンフィーリング』でお馴染みのヴォーカルグループ "サーカス" のリーダー 叶 高 (かのう たかし) がオープンさせたライブカフェ、"KANAFU ~叶風~カナフ" だ。

カナフがあるのは元々 "メインロブスター" というレストランだった場所。叶高がFM 湘南ナパサのパーソナリティを務めていた頃にたまたまオーナーと知り合った。そのオーナーからレストランを閉店することを聞いた時に、家族と話し合い "海のそばでライブハウスをやってみよう" と一念発起し、2012年4月に今のカナフとして再オープンさせた。「海は気持ちが良いし、富士山もキレイに見渡せる平塚が大好き」だという。

叶高は、1954年福岡県の門司にて叶家の長男として生まれた。新聞記者の父を持ち、幼少時代は日本各地を転々とした。母親はいつも大声で歌っていて、父のピアノに合わせて家族でよく歌っていたという。そして、多感な高校時代は冬季オリンピックのあった札幌で過ごし「陸上部主将」として活躍。歌うことも大好きで、その頃「スター誕生」にも出演したりもしていた。昭和52年日本大学芸術学部演劇学科を卒業。演劇の道に進むか歌を取るか迷ったのち、姉(正子)の誘いを受け「サーカス」の一員となり、1978年『Mr. サマータイム』が超大ヒットとなった。以来、コンサート、ミュージカル、テレビ、ラジオにも多数出演し今に至っている。「あの頃の演劇の経験が、今の活動にももの凄く生きている」そうだ。歌以外にもサーカスの魅力はいろいろあるが、特に愉快で楽しいMCは素晴らしく、その中心はいつも叶高だ。

日本の音楽シーンのトップランナーとして、コーラスの魅力を保ち続けているサーカスのメンバーは、これまで叶家の長女(正子)・長男(高)・次男(央介)・次男嫁(原 順子)

ネット上にこんな調査結果が出ていた。「音楽の生演奏を聴きに行く頻度は?」「ほとんど行かない」40%、「行ったことがない」12%、「1年に1度」14%、「2年に1度」9%…etcという状況だった。50%以上の方が音楽を生で聴きに「行かない」ので

の4人だった。今年、デビュー35周年を迎え、次男夫婦が円満 "卒業" し独立。正子&高はそのまま、ありさ(高の長女)、オーディションで選ばれた吉村勇一の4人で "新生・サーカス" として、NEW アルバム『We Love Harmony!』をリリースした。その4人に関して、叶高曰く「長女の正子は、口数こそ多くはないが、大らかで存在感がある。娘のありさは小さい頃から明るくて人懐こい。勇一くんはオーディションで選びましたが、決め手となったのは、歌の上手さはもちろんとして、叶家と同じく彼の家も、音楽が家族の絆をつないでいる音楽一家だということ。お姉さんはプロの演歌歌手としてとても有名。そこに大きな共通点を感じた」。

家族の絆…あの3.11以降、特に強く認識されているコトバだ。叶高は言う。「子供が生まれた時、ホントに嬉しかったんですよ。元々子供が大好きで、人の子供でもずっと抱きしめていたくらい(笑)。それが自分の子供なら、誰に遠慮も無く、沢山抱きしめてあげられるじゃないですか。イジメや非行なんて、その子を誰かがずっと抱きしめてあげていたら、絶対に起こらないと私は信じていますし…。そして代名詞の "ハーモニー" についても「ハーモニーは、それ自体が持っている言葉にできない "ぬくもり" や "安心感" を皆が共有できると思っています。もっとも皆でそれを分かち合いたい。もし誰かが寂しい人がいたら、少しでも隙間を埋めてあげたい、お役に立ちたい…と思って歌っています。いつの間にか娘のありさも、人のために何かをしたい…というタイプの人間になっていましたね」と。サーカスの音楽もライブも、さらにカナフの空気も、一様に "温かい"。そして、それらはこの上なく心を豊かにしてくれる…。



娘のありささんと(※)

…。

(文：早川隆浩)

サーカス NEW ALBUM

『We Love Harmony!』

好評発売中

(2013/04/24 Release)

OMCA-5034 ¥2,500 税込

【オマガトキ/コロムビア・マーケティング】

<http://www.soundcircus.co.jp/>



KANAFU ~叶風~ 080-5092-8565 平塚市代官町 7-29
出演者募集中/貸し切り可/ヴォーカルレッスン実施中

<http://www.kanafu.jp/>

表紙・二面(※)写真 撮影：山岸大介

芸術文化に触れてみよう!! ~芸術文化子ども体験事業~

平成25年1月26日(土)、2月9日(土)、2月16日(土)の3回にわたり、「平成24年度芸術文化子ども体験事業」が開催されました。この事業は次代を担う子どもたちが日本の様々な芸術文化を体験し、歴史、伝統、芸術文化に対する関心や理解を深め、豊かな人間性を育むことを目的として、平成24年度から新規に実施しました。

今回は横内公民館の和室とホールを使って、横内小学校3～6年生の子どもたちが日本舞踊、華道(生け花)、三曲(琴)の体験をしました。

参加した子どもたちからは「もっと習いたい!」「もっとやってみたい!」という声がたくさん聞かれ、初めて触れる日本の伝統文化に関心を寄せている様子が見られました。

平塚市教育委員会社会教育課では、平成25年度も子どもたちがより多くの種類の芸術文化に触れ、親しんでもらえるよう事業を拡大していく予定です。

★お問い合わせ 社会教育課(35-8123)



《日本舞踊》子どもたちが浴衣姿に身を包み、基本の礼儀作法や立ち居振舞いを教わりました。



《華道》「草花に気持ちを込めることが大切」。生け花の説明を受け、先生のお手本を見た後それぞれの感性でチューリップなどを活かしました。



《三曲》琴の歴史や音の出し方を学び、「さくらさくら」をみんなで練習。その後の講師の実演では皆琴の音色に耳を澄ませて聞き入っていました。



大城マリアさん

日本を愛する 子どもたちを育てたい

今回御紹介するのは、ポリビアで生まれ育った日系二世の大城マリアさん。約20年前から平塚でスペイン語通訳として活躍してきました。市役所をはじめ平塚市内での通訳、そして県域で運営されるMICかながわという団体の医療通訳として活動していましたが、それらの通訳活動をこの春でひと段落させ、現在次の夢に向かって準備中です。

結婚し、子どもを授かるまで大城さんはポリビアで暮らしていましたが、生まれた長男に難聴があることがわかり来日を決意しました。「ポリビアの教育は日本よりもずっと遅れていたし、何より聴こえない子にしてあげられることがまったくわからなかったのです。同じ障がいのある人もいない、どうすればいいか聞ける人もいない。小さな息子を抱いて、途方に暮れたあの時の絶望感は何とも言いようがないですね。」

平塚へ移り住んだことで、生活は大きく変わりました。「難聴のせいで健聴の子どもと同水準の教育が受けられないということだけではないように、必死で働きかけてきました。ろう者であることもむしろ理解してもらいたくて隠さず人に話したし、子どもが臆することなく外へ出て行くことができるように、私自身も人とのつながりを大切にしてきました。苦労することもありましたが、私たちに優しく接し、たくさんのことを教えて

くれた周りの人たちには、感謝し尽くせません。」

来日後生まれた長女も加わり、二人の子どもが自立して社会へ出るようになった姿は大城さんにとって大きな喜びです。サッカーが上手で世界中に友人を作り外へ出るのが大好きな息子と、小さい頃からの保育さんになる夢を叶えた娘。社会で多くの人と関わり、助け合う大人に育ってほしいという大城さんの願いを、二人は期待以上に実現しているようです。

これからの夢を大城さんにたずねました。「多くの子どもたちにスペイン語を教えたいんです。外国語や異文化に触れさせ、日本の子どもたちに視野の広い、自分の国を誇れる大人になってほしいのです。日本は、世界に自慢できる美しい言葉と文化を持ったすばらしい国。物質的な豊かさでは測れない価値を、子どもたちに教えなくてはいけないと感じています。」新たな使命を胸に、大城さんの活動はまだ続きます。

『史跡の風景』 第5回

市内唯一の国史跡 五領ヶ台貝塚



五領ヶ台貝塚がある台地を望む

広川にある五領ヶ台貝塚は縄文時代前期から中期(約7000年前～約4500年前)の貝塚です。大磯丘陵の東端に張り出した舌状台地上にあり、貝殻や土器は東側と西側の斜面に堆積しています。現在では海岸線から遠く離れ、花水川河口から5km以上も内陸に位置するこの台地ですが、当時は近くまで海が入り込んでいたと考えられています。

貝塚から出土した貝や骨を見ると、ダンベイキシャゴという巻貝やイルカ、クジラなど海獣類の割合が多いことが目をひきます。このことは周辺の海岸線が砂浜だけではなく、ある程度の水深を持つ入江や岩礁帯で形成されていたことを物語っています。また、出土した黒曜石を分析したところ、伊豆七島の一つ神津島で産出したものが多く見つかりました。五領ヶ台貝塚を作った人々が、この地で「海」と深く関わりながら暮らしていたことがわかってきたのです。

この五領ヶ台貝塚の存在に初めて着目したのは、地元の郷土史家森照吉氏です。その後神奈川県文化財専門委員の石野瑛氏、早稲田大学の西村真次氏、東京大学の八幡一郎氏らが発掘調査を実施しました。そして、その資料を基に山内清男氏は中期初頭(約5000年前)の土器型式として「五領ヶ台式土器」の設定を提唱しました。山内氏の型式設定は多くの考古学者が基準として採用したので「五領ヶ台」の名も考古学研究の上で欠かせないものになったのです。



五領ヶ台から南の眺望

ところが、昭和40年に発表された小田原厚木道路の建設計画では、道路によって西側の貝塚が

破壊される可能性が出てきました。幸い道路の計画は変更され貝塚が守られることになりましたが、高度経済成長期の開発の波は次第に貝塚の周囲に迫ってきます。そして昭和46年、平塚市教育委員会は遺跡を保存するため、貝塚を含む約6000㎡の畑地を買収することを決定しました。市有地となった遺跡は永久に保存すべき文化財として、国の史跡に指定されました。未来の市民に受け継がれていくことになったのです。

現在、史跡内は「五領ヶ台公園」として整備されています。平塚の市街地を遠くに臨む静かな公園は、春には桜が彩りを添え、秋には海辺の波に代わって稲穂の波が眼下に広がります。縄文時代の人々が貝や魚を採り、様々な土器を作りながら暮らしたこの台地は、数千年の時を経て、訪れる市民の憩いの場となっています。



公園の今昔 左:開園当時 右:現在



五領ヶ台と小田原厚木道路



五領ヶ台公園

平塚市文化振興基金

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活かされます。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願いたします。

(電話 0463-32-2235)

今井亮太郎「真夏のブラジルピアノ」コンサート in 湘南 ～青い波と透き通った風の物語～

たわわ85号でご紹介した平塚市出身、在住のブラジル音楽ピアニスト、今井亮太郎さんが平塚市民センターでコンサートを開催します。夏の午後、ブラジル音楽に包まれてみませんか。

日時 平成25年7月28日(日)
15時開場 15時30分開演
会場 平塚市民センター大ホール
入場 大人 3,500円
子供(小学生以上中学生以下)100円
未就学児無料
チケット発売日 5月17日
お問い合わせ 0463-24-4422 (海鮮和食家いしけん 石川)

ピアノだけで聴くボサノバが心地良い… 今井亮太郎 NEW ALBUM 「ピアノ・ジョピン」

OMCA-1168 2,000円(税込) 2013年7月3日発売
【発売: 榊オーマガトキ / 販売: コロムビア・マーケティング㈱】
アントニオ・カルロス・ジョピンのピアノ・カヴァー
12曲+オリジナル1曲=計13曲収録



発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成25年(2013年)5月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>